第 68 回神奈川建築コンクール　一般建築物部門審査総評

審査委員：藤岡　泰寛

今年度の一般建築部門への応募は昨年度から 2 件増加し 25 件となった。

書類審査による一次選考では、あらかじめ応募作品の資格を確認した上で、各作品に対して審査委員が評価点と評価理由を附した上で全ての作品について合議し現地審査の対象を絞り込んだ。この結果、現地審査の対象となる建築作品は 11 作品となった。

現地審査は 8 月下旬に 3 日間かけて行われ、各作品の印象や評価について現地で活発に意見交換された上、最終的な選考を投票により行った。視察後の第 2 次審査委員会で各人の評価点数の合計点を参考に慎重に合議し受賞作品を選出した。この結果、最優秀賞 1 作品、優秀賞 6 作品、アピール賞 2 作品となった。

全体的には神奈川の歴史や風土、地域に根付いた文脈を丁寧に読み取り、新しいニーズと結びつけた建築作品が多く見られた。リノベーションと新築の組み合わせや、地域の修景をテーマとする建築作品が含まれていることも印象的だった。

最優秀賞となった**「明治大学生田キャンパス センターフォレスト」**は、大学キャンパスの再編計画である。老朽化した教室棟の更新と既存図書館の機能移転を契機にハブとなる新しい中心が生まれている。PC 床版により内部に自由度の高い無柱空間が確保され、縦方向の杉板型枠を用いた RC 打ち放し仕上げの列柱が様々な役割を担いながら象徴的にも内外を繋いでいる。図書館移転計画にも工夫がみられ総合的に優れた建築となっている。

つづいて優秀賞の**「徳生公園のトイレ」**は、大きな池と遊歩道がある公園の公衆トイレである。4 つの小さなボリュームに分節した配置は圧迫感を軽減するとともに換気・採光面で維持管理上の合理的メリットをもたらしている。テーパー形状とコンクリート小叩き仕上げの工夫により手仕事の表情が加わり、親しみやすく時とともに風景にも馴染む優れた建築となっている。

「日本体育大学 横浜・健志台キャンパス 再開発整備」は、収容定員拡大や地域貢献を目的とした都市計画提案による新校舎中心のキャンパス再整備計画である。新校舎に設けられた回遊型共用空間は交流機能に加えて環境調整の役割も果たしている。荷重面で不利となりがちな図書館を眺めの良い最上階に設け地域利用可とするなど配慮された優れた建築となっている。

「川崎市立新小倉小学校」は、先端技術の集積で大規模マンションの建設が急速に進んだ地域の新設小学校である。市内最多の児童数が見込まれる大規模な小学校の計画に際し、オープンプランの採用や特別教室まわりのコーナーの工夫、校舎内外のストリートやプロムナードの工夫により多様な場を生み出しながら将来変化にも対応しうる優れた建築となっている。

「野毛山動物園なかよし広場ふれあいコーナー・休憩所・トイレ」は、市立動物園内の小

動物とのふれあい体験などが可能なエリアのリニューアル計画である。既存躯体を残置することでコスト面や環境面にも配慮しつつ、地形の起伏に応答した屋根架構により休憩所とトイレを含めたエリアの一体感が生まれている。ここが初めて訪れる動物園となる子どもも多く、動物と動物園に近しさを感じる優れた建築となっている。

「三菱ケミカル Science & Innovation Center」は、民間研究所の建て替え計画である。樹齢約 50 年のケヤキ並木を覆うシェードと 3 次元の建物ファサードにより、環境と一体化した創発空間が生まれている。改修棟（厚生施設）と繋がる歩行者用ブリッジで生まれる交流や往来を通じて、ただ鑑賞するだけではなく身体感覚としてもケヤキ並木を感じることのできる優れた建築となっている。

「三河屋本店改修計画」は、昭和 2 年築の母屋と蔵で構成される登録有形文化財「三河屋本店」の改修計画である。建築基準法の適用除外を受けた鎌倉市で初の取り組みとして、7 年をかけて実現した実績は今後のモデルとなるものである。母屋に加えて蔵の再生や約 30m のトロッコレールの保存などにより当時の商業文化を伝える優れた建築となっている。

さらに今回は、アピール賞を 2 作品に授与することとした。

「東芝 総合研究所 イノベーション・パレット」は、企業の研究所建物の減築と新棟建築による創発空間の計画である。住宅系の敷地周辺に配慮した配置計画や、卓越風を取り込む自然換気フィンの採用などの工夫が評価され、アピール賞（環境）を授与することとした。

「逗子整形外科内科医院」は、地域に根付いたクリニックの建て替え計画である。従前の 3 階建て建物を 2 階建てとし、擁壁を撤去しクロマツをシンボルとする原風景の修景を母屋敷地も含めて行うなどの工夫が評価され、アピール賞（景観）を授与することとした。